校長室から **ひがしなら通心**

（Ｈ３０年度）　茨木市立東奈良小学校　川上　隆　Ｎｏ．６０

平成３１年3月１１日（月）発行

６年生のみなさんへ　～「旅人と三人の木こり」～

６年生のみなさん、保護者のみなさま、ご卒業、おめでとうございます。卒業にあたり、「旅人と三人の木こり」のお話を贈ります。

旅人が、炎天下に仕事をする三人の木こりと出会いました。旅人は「大きな木を切って何を作っているのですか」と尋ねました。

一人目の木こりは「仕事をしないと親方に叱られるので」と答えました。
二人目の木こりは「ごはんを食べるお金が稼げませんので」と答えました。
三人目の木こりは「人々が祈り、安らぐ場を作っています」と答えました。

この旅人が出会った木こりたちのように、同じ仕事であっても考え方が異なれば、生き方も変わってきます。そして、三人目の木こりのように誰かのために貢献する思いで仕事ができることは何と幸せなことでしょうか。

古代ギリシャの哲学者であるソクラテスは「最も大切にしなければならないことは、善く生きること」と述べています。「善く生きる」とは、正々堂々と生きること、品格を持って生きること、志を貫く意志を持って生きることなど、様々な言葉に言い換えることができます。それらは、全て正しいと思います。

しかし、それらの本質を考えると「善く生きること」とは、「善い自分を創る」ということです。魂を磨き続けるという意味です。私たちが生まれてきた意味がそこにあります。

みなさんは、やがて社会人として、これからの日本や世界の担い手となっていく人材です。多様化する現代社会の現実を見つめ、たくましく立派な人間に成長していくことが、自立し、世界の平和と人類の調和に貢献することなのです。生涯にわたり、志を持ち、学び続け、磨き続け、三人目の木こりのような善い自分を創ってください。

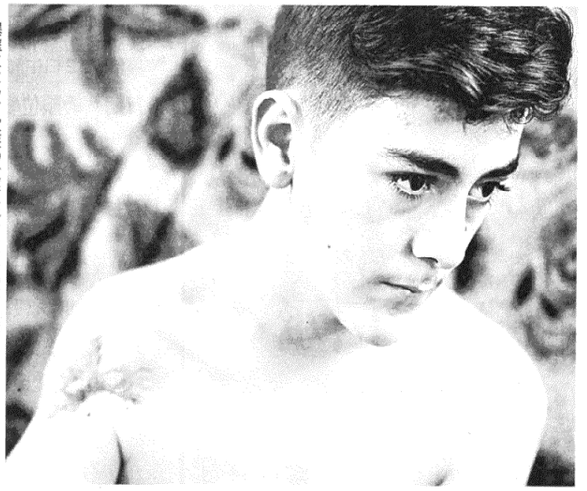
希望にあふれたみなさんに、幸多きことを心より祈っています。

ある新聞記事より　～3月3日（日）毎日新聞朝刊より～

心の強さ胸に／戦争は人災／ほっておけない

紛争地の子へ 思いさまざま

茨木市立東奈良小学校（川上隆校長）の5年生約80人が、今年1月に毎日新聞記者による出前授業を受けた感想文を送ってくれた。過激派組織「イスラム国」（IS）の暴力にさらされたイラクの子供たちについて学んだ児童たち。同世代の子どもたちへの思いや紛争への怒り、そして「なぜこんなことになるのか」という素朴な疑問を訴える文章の一部を紹介する。【まとめ・福田隆】



爆撃によって家族の大半を亡くし、腕を負傷したアリ・ヤヒア・アブドラ君は取材中、無表情のままだった。東奈良小の児童たちは出前授業でこの写真を見て、紛争の恐ろしさを実感した＝イラク・東モスルで2018年8月8日、木葉健二撮影

茨木・東奈良小児童 出前授業を聞いて

記者と学校交流

坂本希咲さん　もし日本が二つに分かれて戦いをしたらどうなる、と考えるとゾッとした。

樋口洸史郎さん　イラクの人の心の強さとともに、いじめられる悲しさが（自分の心に）入ってきた。

卯野優依さん　紛争とは、当たり前のことができなくなること。ちゃんとしたごはんを食べたり、安心して寝たりすることができなくなる。このことをお母さんや友だちに話そうと思う。

池田梨紗さん　戦争は、始まったらさけることのできない「人災」。今まで思っていた「ぜいたく」と（授業後の）今の「ぜいたく」は変わった。今のぜいたくは、私たち（の生活）なのだ。私たちの当たり前が、紛争地帯に住んでいる人々にとっての「ぜいたく」なのだ。

木山諒二さん　僕は、戦争は絶対にしない方が得すると思います。戦争をすると、多くの人の命がうばわれ、人が悲しんでしまうからです。外国は何が起きるかわからないから、ぼくは、ちょっと行きたくなくなりました。

浅田瑞貴さん　（写真を見て）表情がかたい子もいた。するどい目つきで見つめ、一切笑わなかった。それは私達とは違って、本当にこわく、つらい思いをしたからだ。イラク等の紛争地帯の子供たちの「こわく、つらい思い」と私達の「こわく、つらい思い」は次元が違うと思う。

石原悠貴さん　笑顔ができないって、やばいんちゃうん、と思った。

藤井頑津さん　「ふつうの生活ができない」。戦争をやっている国の子どもたちを見て思った。だれかが終わらせなければならない。でも、そのだれかを待っていたら、終わらないかも知れない。だから、どんな小さなことでもいい、やったらその人の勇気になれると思った。自分たちは日本という平和（な国）で生活しているのに、ほっとくのはおかしい。

杉山豪さん　ぼくが気になること。一つめは、なぜ、住民を困らせようとするのか。二つめは、どうして、この戦争を始めたのか。おかしなところがいっぱいある。

■授業を振り返って

菅野真己子教諭の話　紛争に対して漠然としたイメージだったが、出前授業の後はリアルに考えられるようになった。特に、自分と同年代の子どもたちの写真や話は印象深かったと思う。「何かをしなくてはいけないけど、どうしたらいいのか」と行動に結び付ける感想もあった。ネットなどで様々な情報が流れているが、正しい情報に触れることの大切さを知った。6年生の5月に行く広島への修学旅行につなげてほしい。